

## 平成30年度全国学力・学習状況調査の分析結果と改善方策（概要）

※ 全国平均値を特に上回った内容を成果、下回った部分を課題として指導改善の方策をまとめました。

（詳細はP5～14を参照）

## ＜小学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語 A	① 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと。	① 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと。	➡ 主語と述語を適切に照応させるためには、「こと」などを補うことが必要である。説明的な文章などの学習においても、主語と述語の関係について意識的な指導を行う。
	② 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。	② 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えること。	➡ 心に残った叙述を取り上げ、取り上げた理由を考える活動を通して、象徴性や暗示的な表現等に注目できるような指導を行う。
		③ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと。	➡ 相手と自分との関係やその場の状況を意識して使えるように、具体的場面を設定し、適切な敬語が使われている文とそうでない文を比較させる指導を行う。
国語 B	① 話し合いの参加者として、質問の意図を捉えること。	① 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書くこと。	➡ 資料を参考にして文章を書く場合は、メモの仕方を工夫する指導を行う。また、資料が複数になる場合は、書く文章の主題に関連した言葉を関連付け、整理した上で、文章を組み立てる指導を行う。
	② 計画的に話し合うために、司会の役割について捉えること。	② 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。	➡ 教科書の例文を分析させ、同じような文の構成の作文を書く指導を行う。また、今後どのようにしていくのかという考えを、「これからは（も）」という書き出しで書く指導を行う。
		③ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと。	➡ 自分の考えを伝えるための文章を書く技能を身に付けさせるために、「きっかけ」「事実」「事実から分かったこと」「これからのこと」などといった文章を組み立てる指導を行う。
算数 A	① 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと。	① 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること。	➡ 面積が変わらないとき、人数が増えていくにつれて、より混んでいくということを実感することができるような指導を行う。

	② 直径の長さや円周の長さの関係について理解していること。	② 除法で表すことができる二つの数量の関係を理解すること。	➡ 針金の長さを半分にすると、針金の重さも半分になることを図に表したり、実際に針金を使って確認したりすることによって、実感として捉えさせる指導を行う。
	③ 小数の除法にの意味について理解していること。	③ 円周率の意味について理解すること。	➡ 円周の長さや直径の長さ、円周の長さ÷直径の長さを表に表し、直径に対する円周の長さの割合が一定であり、「円周率=円周の長さ÷直径の長さ」であることを理解できるような指導を行う。
算数 B	① 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすこと。	① 図形の構成要素や性質を基に、一つの点の周りに集まった角の大きさの和が $360^\circ$ になることを記述すること。	➡ 合同な正三角形と合同な正六角形で敷き詰められたうろこ模様において、1点に集まった角の合計が $360^\circ$ になることについて話し合う活動を取り入れた指導を行う。
	② 示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めること。	② 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述すること。	➡ 問題の「説明」を解釈し、他の場合でも成り立つかどうかを調べる活動を取り入れた指導を行う。
	③ 棒グラフと帯グラフから読み取ることができる内容を、適切に判断すること。	③ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に注目していることを解釈し、それを記述すること。	➡ 読み取った情報を、総数や変化といった観点で分類し、それぞれの情報について意見を出し合う活動を取り入れた指導を行う。
理科	① 人の腕が曲がるしくみを模型に適用すること。	① 土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること。	➡ ペア学習やグループ学習を適宜取り入れ、自分の考えと異なる予想に対しても結果の見通しを持つことができるようにし、より妥当な実験方法について話し合うことができるよう指導する。
	② 乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用すること。	② 実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善すること。	➡ 予想から実験結果までを見通し、実験から得られた結果を照らし合わせて考えさせるよう指導する。結果の見通しと実験結果が不一致の場合は、予想、実験方法などを見直し、より妥当な考えに改善できるようにする。
		③ ろ過の適切な操作方法を身に付けていること。	➡ 不純物と液体を分けるという目的意識を明確にして器具を操作させ、併せて、ろ過の各操作の意味を捉えることができるように指導する。

＜中学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語 A	① 文脈に即して漢字を正しく読むこと。	① 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。 (慣用句における設問)	➡ 語句の意味を押さえ、文脈から意味を類推させたり、複数の言葉を比べて適切な表現かを検討したりする指導を行う。
	② 語句の辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を捉えること。接続詞の働きについて理解していること。	② 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと。	➡ 文を書く際に、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるようになっていくかを常に吟味するように指導する。
	③ 慣用句の意味を理解していること。		
国語 B	① 質問の意図を捉えること。	① 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと。	➡ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導する。
	② 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること。	② 文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えること。	➡ 文章の構成や展開を適切に把握し、それぞれの図表などが文章のどの部分と関連しているのかを捉えるように指導する。
		③ 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くこと。	➡ それぞれの場面の内容や場面相互の関係を捉え、話の展開を踏まえるように指導する。
数学 A	① 一次関数 $y = -ax + b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴とを関連付けること。	① 与えられた資料から中央値を求めること。	➡ 資料の傾向を捉えるために、度数分布表やヒストグラムを作成して、代表値を求める場面を設定し、どの代表値を用いて資料の傾向を捉えればよいかを考察する場面を取り入れた指導を行う。
	② 多数回の試行の結果から得られる割合は、ある一定の値に近づくことを理解していること。	② 一次関数の意味を理解していること。	➡ 具体的な事象の中から2つの数量を取り出して、それらの関係を式で表し、変形することで式 $y = ax + b$ になることから、1次関数と判断する場面を取り入れた指導を行う。
	③ 証明の必要性和意味を理解していること。	③ 数量の大小関係を不等式に表すこと。	➡ 比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表すことができるように指導する。
数学 B	① 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明すること。	① 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、数学的な表現を用いて説明すること。	➡ 表、式、グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるように指導する。
	② 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈すること。	② 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。	➡ 問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導する。その際、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を取り入れた指導を行う。
	③ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明すること。	③ 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること。	➡ 数直線や比などに表すことにより、基準量・比較量・割合を捉え、それらの関係を的確に式に表す活動を取り入れた指導を行う。

<b>理科</b>	① 神経系の働きについての知識を身に付けていること。	① 濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 飲み物の濃さを調整する日常生活における経験を想起させながら、水溶液の質量から溶質と溶媒の質量を計算し、実際に水溶液を作る学習の場面を取り入れた指導を行う。</li> </ul>
	② オームの法則を使って、抵抗の値を求めること。	② 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広域の気象情報と観測者が捉える気象現象とを関連付け、空間と方位、時間の観点から気象現象を考えたり説明したりする学習場面を取り入れた指導を行う。</li> </ul>
	③ 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明すること。	③ 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「原因として考えられる要因」を全て指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験計画を立てる学習場面を取り入れた指導を行う。</li> </ul>